

【医療経営特集】

医療経営の革新と質の向上をめざして（3）

国民医療費が、国内総生産や国民所得を上回るペースで増大する傾向にあり、平成23年度には38兆円を超え、40兆円を超える日が近づいてきている。また、厚生労働省によると、2005年に比較して2010年に就業者人口が増加したのは、医療・福祉と情報通信業のみであり、さらに就業者総数は約5,961万人であり、医療・福祉は、総数の10.3%を占めている。

これまでは、これだけの市場に対して、経済学も経営学も正面から取り組むことが多くなく、一部の研究者たちによって研究が継続されてきた。しかしながら、最近では、市場が大きくなり、経済産業省なども政策の重点を医療や福祉に移すようになってきたことで、医療領域に新規参入研究者たちが増えてきた。この現象は、医療経営に関する多角的な研究がなされるということでは大変良いことではあるが、一方、理論だけを振り回す、現場を知らない研究者群によってチェリーピッキングされることも目についてきた。

このような環境下で、日本大学商学部の様々な領域の研究者によって、医療経営をキーワードにして真摯に医療を研究対象とする論文の執筆を依頼し、ここに刊行することができた。

今回は論文として「認知症ケアにおける研修プログラムとしてのロール・プレイングの可能性」を掲載した。本論文は、心理学および介護領域を研究対象とする若手の研究者が、執筆者の大きな研究構想下でのスタート論文であり、わが国の超高齢化社会での認知症ケアに実際の問題として取り組むプログラムを福祉経営の視点から見ると期待される。また、研究資料として、「企業再生支援事案にみる医療法人の倒産と特質－医療法人のガバナンス研究のための予備的作業として－」という視点から、これまで手薄であった医療法人の倒産とガバナンスに関する基礎的研究を法律の専門家が意欲的に執筆し、その第一報として掲載した。

このように医療経営そのものではなく、医療経営にとって重要であるがこれまであまり踏み込まれたことのない領域に関して2本の論文を用意した。

これらの一連の研究が、わが国の医療経営で、現実問題の解決に少しでも寄与することを願っている。

医療経営特集 責任者
教授 高橋淑郎

